

【特集】

鳥取大学地域学部設置記念

鳥取県 中華人民共和国吉林省・大韓民国江原道交流10周年記念

北東アジア地域学国際会議

期日：2004年7月27日 7月28日

会場：鳥取大学地域学部

特集の刊行にあたって

地域学部長 永山正男

この小特集は地域学部がその創設を記念して行った「北東アジア地域学国際会議」の記録である。

地域学部は、国際地域としては北東アジアを重視することを設立の趣旨に掲げている。これは現在ある教育学研究科が「環日本海文化論」を中心科目としていたのを発展させたものであり、同時に、近隣地域である北東アジアの諸大学との交流を通じた教育・研究を行って行きたいという本学部の基本姿勢を示したものである。

今回は、第一回目の会議であるので特に具体的なテーマは設けず、「北東アジア地域学」が相互の協力を通じて形成可能なものであることを明らかにするというを目的とした。また、そのための北東アジアの学術ネットワークの形成を目指した。

当初はメールなどを通じて、内容についての十分な相互検討を行ったうえで開催する予定であったが、実際は想像以上の困難があり、この点では不十分であった。言葉については、当初からそれぞれの母国語を使用するという方針を採った。同時通訳で二日間の会議というのは疲労の限界を超えるのではないかと思い、逐次通訳で行ったが、いささか間延びした感があった。なお、レジюмеについては、中国語版、韓国語版および日本語版の三種類を作成した。

いろいろ改善すべき点もあったが、北東アジア地域学を創ろうという呼びかけには、参加者からはいずれも積極的に応えてもらうことができた。会議の終わりには、来年も開催することが確認され、江原大学、吉林大学および鳥取大学の代表者で、開催地と開催時期およびテーマの検討を行うこととした。

出席していただいたのは、中国が吉林大学、内モン師範大学および東北農業大学、韓国が江原大学、全南大学および春川教育大学であり、その他中国の国家機関である国家行政学院からも出席していただいた。日本側は、鳥取大学の他、京都大学、九州大学および島根県立大学に参加していただいた。それぞれの報告内容は、この小特集に掲載したようにきわめて刺激的であった。会議の内容を、その水準にふさわしい出版社から刊行しようと試みたが、日本の現在の出版事情では困難があり、当面、本学部の研究紀要に掲載することとした。

本国際会議の全過程を通じて鳥取県には非常にお世話になった。片山知事には会議にも長時間出席していただいた。また、鳥取大学の道上学長からも大きな支援をいただいた。これらの支援がなければ、地域学部だけでこのような規模の国際会議を開催することは不可能であった。あらためてお礼申し上げたい。

本国際会議には、鳥取大学は来年度から学部ではなく大学として取り組むこととなったが、地域学部はその中心的な役割を果たすつもりである。北東アジアの研究者たちが、それぞれの地域をベースとしながら、地域研究の国際交流と協力が可能となるように今後も努力したいと思う。本小特集はその第一歩を記録したものである。ご一読いただき、助言・批判などいただければ幸いである。